

大野城心のふるさと館運営協議会 議事録

1 日時 令和5年9月26日(火) 13:30～15:10

2 会場 大野城心のふるさと館 M2階 講座学習室

3 出席者

《委員》

林田 スマ(大野城まどかぴあ)

伊藤 信二(九州国立博物館)

松川 博一(九州歴史資料館)

中村 弘峰(中村人形)

野口 厚(西日本鉄道㈱)

本田 麻子(㈱JTB福岡支店)

古賀 麻美(ままいる)

天野 祥子(ふるサポの会)

片山 一男(ふるサポの会)

《事務局》(大野城市心のふるさと館)

館長 赤司 善彦

ミュージアム担当 課長 山崎 克博、係長 早瀬 賢／島 朋宏、担当 永利 舞、花房 伸哉

文化財担当 課長 石木 秀啓、係長 林 潤也／上田 龍児

4 内容

(1) 館長あいさつ

(2) 前回意見への対応・進捗

事務局より、資料に基づき説明。

[委員意見]

なし

(3) 令和5年度上半期事業報告

事務局より、資料に基づき説明。

[委員意見・質疑]

(委員)「白木原ベースサイドストーリー」に感銘を受けた。昔からずっと続いているバイクブームと地元の歴史を絡めた企画の発想が素晴らしい。様々な世代の人が来られていた。

(委員)「白木原ベースサイドストーリー」図録のデザインも素晴らしい。「ミニチュアライフ展」には、自分の青森の親戚も来ていて、福岡でやっていることを検索したときに情報が出てきたのだと思う。外部へのPRも成功されていたと感じる。

(委員)春日原や白木原に住んでいる社員も多く、「白木原ベースサイドストーリー」を見に行った

という話も数多く聞いた。よく認知されており、精力的に活動されていると感じた。

(委員) これだけのイベントをされていて、データはどうやってとっているか。

(事務局) 協力していただける方のみにはなるが、来館者へのアンケートを実施している。特別展開催中は特別展用のアンケートをとって、どの媒体で知ったか、どのような方が来ているかを探っている。そのデータを元に、今後の広報方法等を検討している。

(委員) 「白木原ベースサイドストーリー」の際に特設でバイク用の駐車場を準備されていて、細やかな気遣いを感じた。また、「ミニチュアライフ展」と併せてミニチュアの文化財を展示してしっかり文化財 PR を行っているところがよい。友の会の入会者がとても多かったとのことだが、友の会の方にはどのような PR をしているか。

(事務局) 主にメールで館のイベント情報を流している。また、特別展内覧会の案内をお送りしている。

(委員) 友の会入会者の心をつかむ努力をしっかりとされている。

(事務局) 入会費 200 円のみでそのあと年会費はなく無料であるが、特別展内覧会の招待が来るなどかなりお得な特典となっており、入会者による口コミも狙っている。

(委員) イベント会社の人と話したとき、子ども連れをターゲットにしたイベントの際、子どもに向けた PR だと集客できるという話が出た。ワークショップなども子どもがやりたいメニューだと遠くからでも親は子どもを連れてくるが、大人向けのメニューだと遠くからは子連れでは来ないことが多い。また、最近のお母さんたちは SNS がメインのツールとなっている。人間は見てから 0.5 秒で詳しく見るかどうか決めると言われる。文字ばかりより画像の方が PR できるので、うまく SNS を活用してほしい。

(委員) 「白木原ベースサイドストーリー」は展示解説で入ったが、こんな年齢層の方たちがくるのかと新鮮に思った。この年齢層の方を呼び込めたのは企画として成功だと感じた。また、「ミニチュアライフ展」を夏休み期間に実施したのがよかった。たくさんの親子連れに来館いただき、良い時期に良いテーマ（作家）で実施されたと思う。

(委員) 「白木原ベースサイドストーリー」のときは、地元の方たちは 2 階、バイカーの方たちは 3 階と熱心に見る部分が全く違っていた。

(4) 令和 5 年度下半期事業予定

事務局より、資料に基づき説明。

〔委員意見〕

なし

(5) 開館 10 周年に向けて

事務局より、資料に基づき説明。

〔委員意見〕

(委員) 他市の公民館事業でその市の市民以外はこないで下さいと言われたことがある。大野城市はそういうことを言われたことがなく、市内外の区別をつけないこの形のままやってほしい。

(事務局) イベントの申込なども市内外で区別をつけないという方針。今後も続けたい。

(委員) 市内の小中学校の校歌にはほとんど「大野城」「水城」が入っている。そこからの切り口で文化財への興味を促しては。それぞれの学校のそばの史跡についてなど、学習の成果を自分たちで発表する場をもてば子どもたちのやる気も出る。また、文化財に対する考え方を身近なものにしていくため、各小中学校に展示コーナーを設けて、学校に市内出土品などを展示してみてもいい。

(委員) ガラス壁のラインシールを見た方から「かわいい、これは何だろう」という声をよく聞く。同じように、ままいる一むの活動で作った手形足型アートのバッグを見たほかの方から、「あれ何だろう、かわいい、つくりたい」という流れが生まれる。例えば館オリジナルのエコバッグなどを作り、その作ったものが自然発信していくという流れを作っていくとよいのでは。

集客の方法として、最近は中高生の間で TikTok がとても流行っている。館でも TikTok での発信をすると中高生の目に留まると思う。また、ままいる一むでジョーくん・まどかちゃんを呼んだときに、ままいる一むは知らなかったけど、ジョーくんが好きなので来ました、という方もたくさんいた。大野ジョーくんも来ますよ、という PR で館外の文化財イベントにも参加者を抱き込めるかもしれない。

(委員) 市内の小学生は全員ここに来るような 10 周年企画ができればと思う。中学校にはオンラインを活用して参加を促す。牛頸の方に新しくガイダンス施設の計画があるとのことだが、館外施設と館の周遊性をもたせるよう計画を進めてほしい。常設展示についても今後、意見を出していきたい。

(委員) 東京国立博物館の教育普及でも、子どもたちに来てほしいが、キャパオーバーになり断らざるを得ないジレンマがあった例もある。サポーターの方たちにプログラム構築をお願いするなど、サポーターの方たちをうまく巻き込んで取り組んでほしい。

また、周年事業を進めるにあたっては、何のためにやるのか、その目的などを考え、意識しながら記録を行い、進めていく必要があると思う。

(委員) 次は 10 周年というところで、館の特徴・性格を大きく捉えなおす時期にきていると思う。たくさんの幅広い事業をされているが、悪く言えば館のテーマが散漫になっているとも言える。

たとえば、「大野城心のふるさと館」というネーミングだが、市外の人からすると何の館なのかよくわからず、意識に残りにくい。この館の“尖り”を出すため、テーマやスローガンなどをも一度考え直してみてもいい。主に考古学的な貢献をしている館であり、たとえばテーマとして色々な「発見」ができるミュージアムだよ、というような性格付けをすれば、学校の先生なども呼び込みやすかったりすると思う。

グッズなどもこれを買っておけば間違いないというような定番のものと良い。10 周年の時も目玉になるグッズやカフェメニューなどがあるとよい。カフェメニューの持ち帰りもできればお土産にもなる。そこでもやはり館の“尖り”が必要となる。

(委員) 博物館なのか歴史資料館なのか、というわかりにくさがある。ここでは当たり前のものかもしれないが、大文字まつりにしても、水城跡や大野城跡にしても、その歴史を誰もが知っているという訳ではない。たとえば、白木原駅の青は「水」をイメージ、下大利駅は「石垣」をイメージしているが、それはなぜなのか、そういう歴史を知るためにこの館があるのか。知らない人に対して、シンプルにわかりやすく伝える必要があるのでは。

個人的にだが、常設展示が常にあることにも疑問がある。なぜその常設展示はそこにあるのか。館長の話で聞くと興味深いことでも、実際に展示と解説を見るとそうでもないということもある。うまくシナリオ・ストーリーを入り口にして、知らない人にもわかりやすい展示になればいい。

これまでの事業や今後の予定を見てもとてもよくがんばられており、これ以上があるのかとも思うが、ぜひこの調子でやっていっていただきたい。

(委員) 館のストーリーブランディングをここからの5年間で実施していければよい。また、これからの5年で電子チケットやキャッシュレス決済、アンケートの電子化などのDX化に取り組んでみては。お祭りなどでも若者の現金を支払うストレスは見られる。DX化が進めば、効率の良いデータ収集にもつながると思う。

(6) その他

(委員) ロンドンの美術館での話だが、海外のミュージアムは、入館料無料で募金制のところがある。ガラス製で中が見えるなどのカッコいい募金箱があったり、置かれているベンチに〇〇夫妻寄贈などと書かれていたり、みんなに愛されていることが感じられる空間になっていた。

来館者サービスとなると、割引という方に目が行きがちだが、中には多く払いたい方もいるのではないと思う。その受け口として募金箱やクラウドファンディングなど気軽にお金を集めることができるシステムなども考えてみては。

(事務局) 皆さんからいただいた意見を元に取り組んでいきたい。これからも10周年に向けてぜひ多くの意見をお願いしたい。

→次回は令和6年2月14日(水)を予定している。

5 配布資料

- ・次第
- ・資料
- ・紀要 第2号
- ・令和5年度春特別展「白木原ベースサイドストーリー」図録
- ・ここふるニュース vol.17
- ・5周年記念イベントチラシ